

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.99/2024.10]



「The hook of words (言葉のひっかけり)」 小粥幸臣さん作

西尾の抹茶

愛知県西尾市は、日本でも指折りの抹茶の里。

「西尾の抹茶」が生まれた歴史を

西尾茶協同組合の奥谷陽一郎さんに伺ってみました。

僧が広めたお茶

茶道にはじまり、お菓子などでもお馴染みになってきた「抹茶」。愛知県に抹茶の一大産地があることをご存知だろうか。三河地方に位置する西尾市だ。しかも、抹茶に特化した生産を行っているのは、全国でもここ西尾だけといわれている。

西尾でのお茶の栽培は古く、文永八年（一二七一年）に創建された実相寺^{じし}の境内で、開祖の聖一国師がお茶の種を播いたことに始まる。また、この頃は僧侶や貴族が愛飲する貴重なものであった。

その後時を経て、お茶の栽培と抹茶の生産が本格化するのには、明治の頃。きっかけとなった人物が、紅樹院^{こうじゅいん}の住職であった

※1 吉良莊西条を治めた中世吉良氏の菩提寺として足利（吉良満氏）が建立したと伝えられている。

※2 大永年間（1521～1528年）に、徳川家康の伯母を弔うために創建されたと伝えられ、西尾に茶産業を広めた「茶祖の寺」として親しまれている。

お茶づくりに最適だった！

西尾は、愛知県の中央を南から北へ流れる矢作川流域の南に位置します。赤土の土質に、矢作川が運んでくる砂がほどよく混ざり、水はけのよい砂質壤土に。この土と温暖な気候が、抹茶の原料となるてん茶葉の栽培にとっても適していたのです。



伝統が生むまろやかな味

西尾の抹茶は甘みがあり、香りが高く、鮮やかな鶯色だ。特徴となるまろやかな味を生み出しているのが、ずっと受け継がれている「棚式覆い下栽培」だ。

抹茶の定義は、茶摘みの前の二〇日間ほど、茶畑に日光を遮断する黒い覆いを被せた茶葉を使うこととなっている。西尾の棚式覆い下栽培は、この覆いの被せ方に特徴がある。茶畑に直接黒い覆いを被せるのではなく、棚を作って茶畑と覆いの

足立順道氏だ。足立順道氏は京都の知恩院に赴いたときに、西尾の地形や気候

が京都の宇治に似ていると気づき、宇治で製茶技術を学ぶことに。そして明治五年頃、持ち帰った茶種を、境内を開墾して開いた茶園で育て始める。すると、とても良いお茶ができた。そこで、地元農家での栽培も始めることにした。

次に考えたのは、でき上がったこのお茶をどう普及させていくのか。すでにお茶の産地として静岡、京都、三重が確立している中で、どう差別化していくのか、ということが課題になった。高品質なお茶として、どこにも負けない自信はある。そこで高級茶路線として、玉露の生産・販売に力を入れていくことになったのだが…。ここ

間に人が入れるくらいの空間をつくっている。この空間がポイントだ。

ご存知のとおり、葉は光合成で大きくなる。



遮光で九十八％はシャットダウンされるが、入ってくる残り二％の太陽の光を浴びたい葉は、たくさん

抹茶はほかのお茶と何が違う？

抹茶の原料となるてん茶は、摘まれた葉を蒸して乾燥させたあと、茎と葉脈を取り除いて葉肉だけにした茶葉のことです。唯一てん茶だけが製造工程で茶葉を揉まないのが特徴で、煎茶、玉露、深蒸し茶などのお茶との大きな違いになっています。

ちなみに「粉茶」は、緑茶を作るときにできた粉を集めたもので、抹茶とは別ものです。

で、あることに気づく。

まず、抹茶の加工工程で欠かせない茶臼は、材料となる御影石の一大産地である岡崎がすぐ近くにあり、手に入りやすいということ。次に商品の買い手だが、尾張地方は古来より抹茶を飲む文化が根付いており、販売先も用途が広がっていたこと。必然的に、抹茶の一大産地になり得る条件が西尾には備わっていたのだ。そこで、玉露路線から抹茶路線に切り替えることに。そして、明治初期から大正にかけて、抹茶の原料となるてん茶が、生産の八〇％占めるようになっていた。

こうして、西尾のお茶は抹茶に特化した抹茶の里としての道を歩み始め、西尾の抹茶の礎は築かれた。

葉を手摘みし、御影石の茶臼で挽くという、昔ながらの一番おいしく作られる手法が受け継がれ、守られている。



新芽が伸び始める4月頃、西尾の茶畑は黒い覆いで覆われる。



てん茶は、大正時代から続く伝統のレンガ積みてん茶炉で乾燥作業を行う。

暮らしに息づく茶文化

西尾市民の抹茶やてん茶への愛は深い。それは、独自の茶文化で育まれている。その一つが、約八〇年続く中学生の勤労体験学習だ。二〇二二年に幡豆郡と合併する前からある中学校六校で行われている伝統学習で、昔ながらの手摘みを体験するものだ。学習名に「勤労」という言葉が入っているように二日間、朝八時から夕方五時くらいまで、実際に働く方たちとともにしっかりと茶葉を摘む。同じ作業の繰り返しで忍耐も求められるが、生徒たちからは「いろいろ学ぶことができた」「楽しかった」という声が多く寄せられ、貴重な体験となっている。子ども頃からお茶に触れ親しむことで、身近なものであることが自然と身についていく。そして、自分が暮らす街の特産品づくりに携われることで、抹茶への想いが深まっていくようだ。



また西尾では、飲むだけでなく、食べる文化も生まれている。まだ今のようにスイーツなどに用いられる前から、抹茶の原料であるてん茶が食べられていた。一九六〇年頃のことだ。てん茶と塩をごはんにまぶした「てん茶ごはん」に始まる。そこからてん茶を青のりに見立てた「ちくわの磯部揚げ風」なども登場し、食べるバリエーションはどんどん広がっている。



てん茶食は学校給食にも登場し、この学校給食でてん茶食デビューとなる西尾市民も多いそうだ。ちなみに、「第七回全国学校給食甲子園」で地場産物を活かした我が校の自慢料理」で、二二七二校が参加した中、西尾中学の献立が見事に優勝！そのときに献立に入っていたのは、てん茶ごはんにしらすをあわ



また西尾では、飲むだけでなく、食べる文化も生まれている。まだ今のようにスイーツなどに用いられる前から、抹茶の原料であるてん茶が食べられていた。一九六〇年頃のことだ。てん茶と塩をごはんにまぶした「てん茶ごはん」に始まる。そこからてん茶を青のりに見立てた「ちくわの磯部揚げ風」なども登場し、食べるバリエーションはどんどん広がっている。

Special

体商標である「地域ブランド」を取得する。茶の分野で抹茶に限定したものとしては、初めてであった。地域ブランドにするにあたって、西尾の抹茶は次のように定義づけられた。

「西尾市、安城市で生産された茶葉を、同地域においててん茶加工・仕上げ精製し、茶臼挽きした抹茶」。

ブランドマーク

西尾の抹茶が使われている商品に記載することでも、もっと西尾の抹茶を盛り上げていこうという作戦だ。西尾

の抹茶の認知度は上がり、今では多くの人々に受け入れられている。

※地域団体商標とは、「地域名」と「商品サービス名」の組み合わせからなる文字商標が登録でき、地域ブランドによる地域経済の活性化を目的とした制度。

「西尾の抹茶」ブランドマーク



「茶道をつなげ、西尾の抹茶を永久的に広げつないでいく」という願いが込められています。

世界で抹茶ブーム！？

いつ頃からだろうか。お菓子やスイーツなどさまざまなものに「抹茶味」が登場するようになり、気づけば世界でも注目される日本の味となりました。

世界10の国と地域で「NISHIO MATCHA」で商標登録されており、海外の商品パッケージでも西尾の抹茶のブランドマークを見かけることも。また、タイのコーヒーチェーン店では、「Nishio Matcha Latte」というメニューがあり、西尾抹茶がそのまま名前に使われています！



もっと手軽に抹茶を！

抹茶は多様化され、さまざまなかたちで味わえるようになったが、純粋にお茶としての抹茶を味わってみたい。そこで、家庭でも手軽に楽しめる抹茶の入れ方を奥谷さんに教えてもらった。

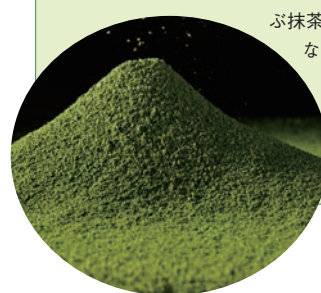
まず、用意するものはふた付きのカップ。このカップに、抹茶と水と水を入れ、シャカ

せた「てん茶しらす飯」である。

抹茶やてん茶を食べる文化を生み出した西尾の人々。抹茶の活用方法を試行錯誤しながら、さまざまなアイデアをあたにすることで、抹茶の可能性を切り拓き、未来へとつないでいっている。

まるごと飲んで、食べて、栄養たっぷり！

抹茶をはじめとする緑茶は、茶カテキンやビタミン類、カフェインなどが豊富！風邪予防や免疫力アップ、体脂肪対策、アンチエイジング…と、さまざまな効果が期待できます。リラックスしたいときは、カラダとココロが喜ぶ抹茶で一服なんていかがですか。



ブランド化を目指して！

お茶業界からも高い評価を得られるようになった西尾の抹茶。抹茶を使ったスイーツなどにも西尾産が多く使われている。だが、抹茶といえば宇治というイメージが強く、なかなか西尾という名前まではでこない。なんとか抹茶＝西尾というイメージを高めた西尾の人々。生き残りをかけ、ブランド確立を目指して一致団結！二〇〇九年に特許庁が制定する地域団

シャカとシェイクをする。すると、氷が抹茶のダマをつぶすのできめが細くなり、舌触りのよい冷抹茶が味わえる。

ここに牛乳を加えれば、抹茶ラテになる。

甘くしたいときは、ガムシロップや練乳などを入れて一緒にシェイクすることをおススメ。砂糖よりも溶けやすく、いい感じに混ざり合う。自分なりのアレンジも楽しそうだ。



濃い目につくったものにお湯を注げば、温かい抹茶が楽しめます。

日本が誇る伝統文化でもあり、一〇〇％自然食の抹茶を、もっと身近なものとして楽しんでもらうために、西尾の抹茶のチャレンジはこれからも続いていく。

作法にこだわらず、茶せんで立てた抹茶もぜひ楽しんでほしいですね！



組合法人 西尾茶協同組合
事務局長 奥谷陽一郎さん

小学生の頃、「幽霊塔」というイギリス原作の探偵小説に出会い、あまりのおもしろさに無我夢中になりました。それが、私の読書好き人生の始まりです。

古今東西を問わず、さまざまなジャンルを読み愛蔵書は三万冊を超えます。特に好きなのが、一九世紀から二〇世紀前半のイギリスの探偵小説。シニカルでユーモアのある文体で、物語の世界観や人物像が深く描かれているところに惹かれます。

私の一冊として挙げるなら、ドストエフスキの「カラマゾフの兄弟」ですね。人間の思想や在り方が究極までに掘り下げられており、読む前と後で世界観ががらりと変わった、とても影響を受けた一冊です。十五年に一度は読み返していますが、その際、「今度はどう受け止めるのか」と期待しつつ、一方で怖さもあります。自分の感性が摩耗して、以前のように感動できなくなってしまう自分がいるかもしれない。そうならないために、いつでも新鮮に受け止められる柔軟な考え方を持ち、感性を磨いていくことを心掛けています。

心から楽しむことで、人生はより深く、豊かになります。

高橋 広 (名港海運株式会社 代表取締役社長 社長執行役員)
(愛銀教育文化財団 理事)



■高橋 広 プロフィール

1971年、名古屋市生まれ。一橋大学法学部卒。1994年から1998年まで大阪商船三井船舶株式会社に勤務。1998年12月に名港海運株式会社に入社し、取締役、常務取締役、専務取締役、代表取締役社長を経て、2021年より現職。好きな言葉は、「あんたかてアホやろ、うちかてアホや」。人は完全ではないから、おおらかな気持ちでお互いを尊重しあっていければと思っている。

れるのが最高の読書。私にとつてそれこそが贅沢な無駄であり、人生を楽しむうえで欠かせないものとなっています。

もう一つ、大きく影響を受けたのが、マーラーの交響曲第九番。人間の生死について深く追求された楽曲です。大学のオーケストラで活動しているときに出会い、「生きるとは、死ぬとは何か」とマーラーも私と同じように悩んでいたことが判り大変励まされました。内気で自分の世界に閉じこもりがちだった私がオーケストラでコンサートマスターを務めたことで、多少なりとも社交的になることができました。

マーラーへの恩返しの意味も込めて、没後一〇〇年にあたる二〇二二年に、私が発起人となって念願の「名古屋マーラー音楽祭」を開催しました。交響曲第一番から順番に一年かけて演奏していくという演奏会です。大規模な合唱団が必要な第八番は二〇二二年の開催となりましたが、演奏するのは名古屋を中心に東海三県で活動されているアマチュアのオーケストラと合唱団。世界でも稀な壮大な試みとなり、大成功のうちに終わることができ



ました。各国が一丸となった唯一無二の音楽祭として、素晴らしい音楽を発信できたことは、私たちの誇りとなっています。また、お客様にもとても喜んでもらえ、名古屋のポテンシャルも感じました。

実は、この音楽祭を終えたとき、やり切った感が強く、ちよつと抜け殻状態になったんです。そんなとき、ロス五輪金メダリストの山下泰裕さんとお話しをさせて頂く機会があり、「一番大事なのは、その経験をふまえて、これから何をするかですよ」というアドバイスを頂けました。それで奮い立ち、アマチュアオーケストラで世界初となるワグネルの「パルジファル」や、

「ニibelングの指環」四部作全曲の演奏会開催に携わることができました。このとき感じたのが、縁の大切さです。声を掛けていただいたり、頼みごとを受け入れてもらえらるは、出会った方々に感謝しながら行動すること、信頼関係が築けたか

らだと思っています。

何においてもそうですが、そこで得た経験を生かし、自分に何ができるのかを考

え、行動していくことの大切さを、アマチュアオーケストラの活動から改めて気づかされました。そして、「この人になら任せても大丈夫」「この人なら受け止められる」という人間力というのは、仕事ができたり、人付き合いが器用というだけで身についていくものではないと考えるに至りました。

私は経営者として、次代を担っていく若い人たちと向き合うことを大切にし、会社で、フリートークミーティングを行っていきます。そこで必ず伝えていることが、心から楽しめる、好きなことを見つけてほしいということ。仕事もがんばる。一方で好きなことも増やしていく。そうしたバランスをとることで、人としての厚みが深まり、人とのつながりも広がっていくと思います。

それを楽しみつつ、ぜひ古典文学にもトライしてもらいたいですね。何百年と多くの人々に読み継がれているのは、やはりそれだけ作品のもつ力が強いんです。人がどう描かれていて、人はどういう在り方があり得るのか、非常に深くシャープに造形されています。読んでいると当時の社会や、そこで生きている人々がありあり浮かび上がってきて、きつと心に響くものがあり、人生はより深まり、豊かになっていくと思います。――談――

「文化小劇場を市民が集う広場にしたい。そして、芝居を通じて名古屋に文化を広めていきたいです」

立ち上がり時からの想いを教えてくれた上田定行さん。こだわりは、演劇公演はもちろんだが、ワークショップにおいても文化小劇場を利用すること。講師は現役の俳優や演出家など。朗読や舞台トレーニング、生活



一瞬一瞬を肌で感じられるライブ感は、やはりおもしろい。

「舞台のセットを眺めながら開演を待つ時間つて、すごくワクワクするんです。これからどんなことが始まるのだろう、といういろ想像するのが楽しいんですよ」

そのワクワクを味わいに、ぜひ劇場へ！情熱あふれる舞台が、皆さんを待っている。



代表メンバーの上田定行さん

ワクワク、楽しみが待っている！文化小劇場を市民が集う広場に——。

演劇公演およびワークショップ
なごや芝居の広場
第34回助成（団体）

2017年より活動をスタート。「暮しの詩」「ゼロの焦点」「奇譚／鹿鳴館」「タクシードライバー」など2023年までに7つの本公演を開催。また、輪になって和やかに楽しめるワークショップを目指して、名称を「輪・和・笑ワークショップ」として活動。声を出し、からだを使い、創造する楽しさを体験できる場となっている。10月26日（金）・27日（土）には、千種文化小劇場にて「楽屋」の公演が決まっている。



「色を重ねる順番や紙の色との相性により刷り上がりの色が変わり、予測を超える色合いや風合いに出会えることがおもしろいです」

作業は手作業で行うため版ズレやカスレ、色ムラなどが生じ、一枚一枚の仕上がりが微妙に異なる。そこから生まれる独特な質感や色合いが、リソグラフの魅力だ。

このリソグラフを使って名古屋でスタジオを運営しているのが、グラフィックデザイナーの岡田和奈佳さん。作家とのコラボレーションによるポスターなどのアート作品、美術館などのチラシ、書籍などさまざまな印刷物を生み出している。



「作業はまさに機械と会話しているような感じ！機械の操作においても、予測のつかないことが起きます（笑）」

例えば、紙が湿気を含んで手差し部分で詰まったり、寒さで半水溶性のインクが固まって三日間刷れなかったり……。環境などの影響で生じるさまざまな課題を乗り越え、刷り上げていく。大変そうに思える過程も楽しそうに話す岡田さん。操作は難しいのかと思えば、基本はボタン操作で、誰でも手軽に印刷を楽しめるという。

そんなリソグラフの世界を多くの人に伝えるために、岡田さんはワークショップも開催。子どもからシニアまでが参加し、スケッチや絵画、版画、写真など自分の創作品や日記などを印刷。中には、友だちとのメールのやりとりを冊子で残したいという興味深いものもあつたそう。

「印刷でもこんなことができるんだ！おもしろい！と思える印刷物を作つて、リソグラフの魅力を広めていきたいです」

価値ある印刷物の制作に意欲を燃やす岡田さんは、印刷の可能性を追求しながら、新たな紙文化の広がりにも挑み続けていく。



表面にニュアンスのある、和紙のような特殊な紙への印刷も可能。

独特の質感が魅力のリソグラフで、紙文化のおもしろさを伝えていきたい。

デザイン・印刷を通した表現拡張のための作品制作実験
岡田和奈佳さん
第33回助成（個人）

信州大学人文学部を卒業後、デザイン会社勤務を経て2018年よりグラフィックデザイナーとしてフリーランスで活動。リソグラフは岡田さんにとって、「仕事やデザイン方法など自分の世界を広げてくれたもの」と教えてくれた。本や印刷にまつわるワークショップやイベントなども開催。2022年にブックレーベル「喫水線」を立ち上げ、出版業務もスタート。また、国際芸術祭「あいち2025」の公式デザイナーにも就任し、活躍の場を広げている。



2024年 5月

- **西村一成さん(絵画制作)** 第20回助成・個人
西村一成展「蛸入道 vs 象の王」〔ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)〕
- **森 克徳さん(陶芸)** 第4回・個人
古希記念 森克徳陶芸展〔松坂屋名古屋店美術画廊(名古屋市中区)〕

2024年 6月

- **市原千明さん(科学)** 第29回・個人
ライブイベント NOB(ニッポンをおもちでバラ色に…)を開催〔番町市民活動センター(静岡市)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第76回定期演奏会 指揮：ユベール・スダーン
〔愛知県立芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- **古井戸芳生さん(現代美術)** 第12回助成・個人
古井戸芳生展 森の精—こもれびの中で—〔Qの美術館(千葉県茂原市)〕
中韓日アートコスモス現代美術交流展2024〔福岡アジア美術館7F 企画ギャラリー(福岡市)〕
- **半田市民管弦楽団** 第33回助成・団体
2024ファミリーコンサート「親子で聴く名作映画とジブリ音楽」
〔半田市福祉文化会館 瀬上工業雁宿ホール(半田市)〕
- **第46回日本新工芸展** 松坂屋美術館(名古屋市中区)〕
● **森克徳さん(陶芸)** 第4回助成・個人「白の装い」
● **新野素子さん(染色)** 第2回助成・個人「時の残しもの—語らう声」
- **堀龍太郎さん(彫刻)** 第11回助成・個人
第53回東海日影展「鎮まれ」〔愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区)〕
アルト デュエット 堀龍太郎・恵美子展〔Art Salon(名古屋市中区)〕
- **劇団シンデレラ** 第9回助成・団体
屋久島うみがめ館「世界環境デー」記念イベント 海とくらしをつなぐお話し会
劇団シンデレラ公演「おかえり、ピピ」〔屋久島うみがめ館(鹿児島県)〕
- **浅井雅弘さん(写真美術制作)** 第25回助成・個人
個展「いつわり てざわり」〔TRANSIT GALLERY(名古屋市中区)〕
- **東海メールクワイアー(男声合唱)** 第7回助成・団体
第65回定期演奏会〔日本特殊陶業市民会館ビレッジホール(名古屋市中区)〕

2024年 7月

- **西村同門会(能楽)** 第22回助成・団体
十四世高安流家元 高安勝久追善 第十回西村同門会「雅遊会」〔豊田市能楽堂(豊田市)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第77回定期演奏会 指揮：ステファン・ドゥネーヴ
〔愛知県立芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
アンサンブルシリーズ第1回 指揮：鈴木秀美
〔電気文化会館ザ・コンサートホール(名古屋市中区)〕
- **劇団シンデレラ** 第9回助成・団体
劇団シンデレラと藤前干潟を体感しよう〔藤前干潟活動センター(名古屋市中区)〕
- **森 克徳さん(陶芸)** 第4回・個人
古希記念 森克徳陶芸展〔大府市歴史民俗資料館(大府市)〕
- **斉と公平太さん(美術制作)** 第31回助成・個人
斉と公平太の個展〔JINGU339(名古屋市中区)〕
- **FK ジュニア弦楽合奏団** 第34回助成・団体
第28回知立市民音楽祭「Patio Festa 2024 ～心をひとつに 音にのせて～」に出演〔知立市文化会館(知立市)〕
- **北条知子さん(音を用いた芸術作品の制作)** 第32回助成・個人
愛知県立芸術大学アーティスト・イン・レジデンス2024成果発表〔愛知県立芸術大学旧音楽学部棟楽器庫(長久手市)〕
- **菅谷瑞恵さん(教育・演劇)** 第33回助成・個人
朗読シアター きぎものがたり act.14「ことばで綴る平和の願い」〔東文化小劇場(名古屋市中区)〕

仲間達の近況メモ

2024年 8月

- **Musikus(クラシックコンサート)** 第22回助成・団体
ブルーメンの音楽隊(ほっとサマーコンサート)〔武豊町民会館(知多郡)〕、半田空の科学館(半田市)、東海市芸術劇場(東海市)〕
- **総合劇集団俳優館** 第26回助成・団体
「はだしのゲン」〔愛知県芸術劇場小ホール(名古屋市中区)〕
夏休みファミリー劇場2024 ミュージカル「ルドルフとイッパイアッテナ」〔千種文化小劇場(名古屋市中区)〕
- **ナゴヤディレクターズバンド** 第8回助成・団体
第54回定期演奏会〔刈谷市総合文化センターアイリス大ホール(刈谷市)〕
- **西村一成さん(絵画制作)** 第20回助成・個人
西村一成絵画展「深怪魚、碧海を泳ぐ」〔碧南市哲学たいけん村無我苑 瞑想回廊(碧南市)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第78回定期演奏会 指揮：山下一史〔愛知県立芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- **Marimbart(打楽器の演奏)** 第23回助成・団体
市民&コラボックルコンサート〔一色町公民館カーネーションホール(西尾市)〕

2024年 9月

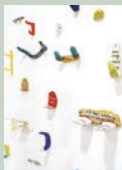
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第79回定期演奏会 指揮：山下一史〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕
アンサンブルシリーズ第2回〔電気文化会館ザ・コンサートホール(名古屋市中区)〕
- **Marimbart(打楽器の演奏)** 第23回助成・団体
「打フェスタ with MARImbart Vol. XIX」〔東文化小劇場(名古屋市中区)〕
- **劇団天白月夜** 第31回助成・団体
第6回本公演「アニマル・ファーム」〔天白文化小劇場(名古屋市中区)〕

書籍・会報誌等の発行

- **東海化石研究会** 第31回助成
4月…東海化石研究会誌「化石の友」69号発行
- **はんだ郷土史研究会** 第19回助成・団体
5・7月…「はんだ郷土史だより」第114・115号発行
- **まつり同好会** 第25回助成・団体
5・7月…「まつり通信」631・632号発行
- **野田史料館** 第1回助成・団体
5月…「野田史料館報」第169号発行
- **江南郷土史研究会** 第3回助成・団体
6～9月…「江南郷土史研究会会報」544～547号発行
- **小牧市文芸協会** 第2回助成・団体
6～9月…郷土文芸誌「駒来」第629～632号発行
- **岡崎地方史研究会** 第34回助成・団体
6月…「岡崎地方史研究会便り」No.61 発行
- **愛知中世城郭研究会** 第30回助成・団体
8月…「愛城研報告」第27号発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

表紙作品



「The hook of words (言葉のひっかかり)」
縦2×横3×高さ3cm～縦12×横25×高さ12cm 陶器
小粥幸臣さん作(第34回助成)

● 作者の言葉

いろいろな形で作られたフックにはひっかった(気になった)言葉が書かれています。あなたはどんな色や言葉がひっかりますか。

訪れたこの日は、吹奏楽コンクールに向けて、まさに追い込みの真っただ中！。パートに分かれての練習では、先輩が熱心に後輩た

と、部長で三年生の村田陽香さん。共に部長を務める二年生の渡邊花恋さんも、一つの楽譜に対してさまざまな考え方があり、それが一つのイメージとなつて聴く人に届けられることがおもしろいと話してくれた。

「高校生として当たり前のことを当たり前に、応援されるような存在になつてほしいです。それが素晴らしい演奏へと繋がっていくと思っています」

顧問の松本航楓先生が掲げるテーマは、
「愛されるバンドになろう。」
「高校生活として当たり前のことを当たり前に、応援されるような存在になつてほしいです。それが素晴らしい演奏へと繋がっていくと思っています」



ちを教える姿があった。合奏の練習では、松本先生の指導のもと、曲のイメージを共有していく。そこでも、気づいたことをすぐ伝え、共有する姿があった。
目標は東海大会で金賞をとること。部員全員で話し合い、決めた目標だ。三年生にとつては最後の大会となる。一、二年生にとつても一緒に演奏できる最後の機会となり、この大会へかける部員たちの熱い想いが、緊張感あふれる練習から伝わってきた。

「村田先輩の部活や自分の演奏に対しての想いの強さを尊敬しています」

渡邊さんは、村田さんをはじめ先輩たちから部活に対する姿勢であったり、礼儀や生活態度など、演奏技術をはじめとするさまざまなことを教えてもらった。今度は、その教えを後輩たちへと、しっかりと伝えていきたいと考えている。

この大会が終われば、次はマーチング大会へ向けて新たなチャレンジが始まる。心奏、一音一音に心を込めて。元気でパワフルな部員たちが奏でる音楽は、これからも聴く人たちを楽しませてくれるだろう。



顧問の
松本航楓先生

愛されるバンドをめざして！
熱い部員たちのパワフルな演奏。

吹奏楽部

愛知県立江南高等学校
第33回援助(高校生)

顧問の松本先生を中心に2名の副顧問の先生と部活動指導員が指導。週5日の練習で、平日は授業後2時間ほど、限られた時間内で練習に励む。令和3年より連続して東海吹奏楽コンクールに出場し、マーチングでは令和4年度に第35回全日本マーチングコンテストに出場。そのほかにもアンサンブルコンテストや重奏コンテストなどにも出場している。また、日頃支えていただいている地域の皆さんに感謝をし、年に1回の定期演奏会も開催している。

部長の
村田陽香さん

部長の
渡邊花恋さん



第35回（令和6年度） 助成および援助対象先決定（敬称略）

楽しさをもたらし、心を豊かにしてくれるさまざまな文化と教育。
選考委員会の厳正な選考を経て、今年度も新しい“仲間”が加わりました。

一般助成 個人

平康悦子 …… 日常にクラシック音楽を。芸術文化普及のための演奏活動
小島範子 …… 舞台上演、ドラマ（テレビ・ラジオ）に名古屋弁で出演
ルチア（丸地亜矢） …… 文化や芸術をととして地域住民との絆づくりを深める
文谷有佳里 …… 線の表現による絵画作品（ドローイング作品）の制作
吉岡さゆり …… 知的障がい者たちの作品展示、サポート、ワークショップ
佐藤友美 …… 企業博物館と地域のかかわりを産業観光と関連づけて研究
金田亜可根 …… いのちと食とアートの学校
細谷耕平 …… 庭師の継承支援に関する研究

一般助成 団体

春日井小子ども夢事業 …… 食を通じて、子どもたちに夢を与える活動
渡邊研究室クラブ・渡研 CLUB サポーター …… 地域の中学生に無償で教えるプログラミング教室
少年少女合唱団 地球組 …… 地域で活動する合唱団
半田ジュニアプラスバンド …… 青少年育成と音楽普及を目指す吹奏楽活動
オイスターズ …… 現代演劇の上演
シルバーボランティア 劇団かがやき …… 公共・高齢者福祉施設等での大衆演劇の公演
CIあいち …… コンタクト・インプロビゼーションを軸とするダンス
堀川まつり実行委員会 …… 熱田湊の伝統芸能文化「神戸節」の再興・継承
mh PROJECT …… 地域参加型サイトスペシフィックアート
一般社団法人 ワンダーハート …… ポレポレの友だちアートクラブ

高校生の文化および体育活動への援助

愛知県高等学校文化連盟 …… 歌舞伎鑑賞会
愛知県高等学校文化連盟 …… 狂言鑑賞教室
愛知県立刈谷高等学校 …… 放送部
愛知県立天白高等学校 …… 写真部
愛知県立福江高等学校 …… 硬式野球部
愛知県立一宮南高等学校 …… 陸上競技部
名古屋大谷高等学校 …… 陸上競技部



あゆち第99号 ● 2024年10月

発行：公益財団法人 愛銀教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎（052）251-3211（代）
<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>



.....